

第40回 EST創発セミナー in 大分〔九州〕

モビリティが創るヘルシーでエコな生活

大分市における 環境にやさしい交通で にぎわいのあるまちづくり

大分市 都市計画部 都市交通対策課

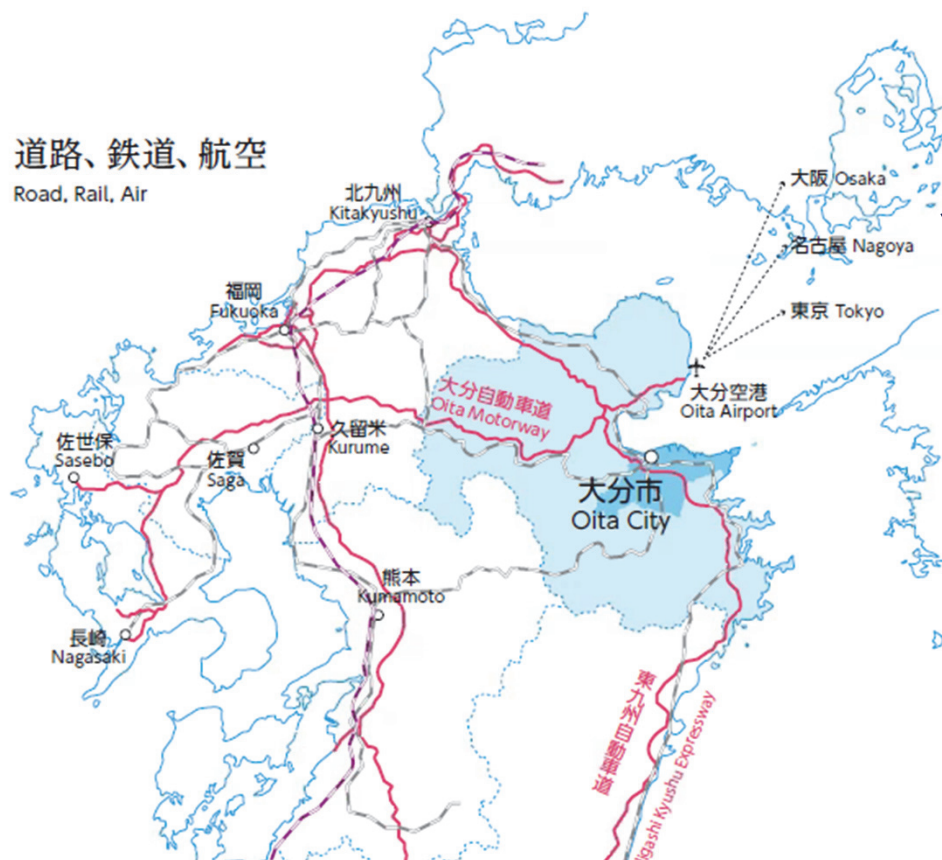


大分市の概要



道路、鉄道、航空

Road, Rail, Air



大分市データ

人口 478,530人
(高齢化率26.6%)

世帯数 222,081世帯

面積 502.39 km²

平成17年に佐賀関町・野津原町と合併

数値は2019年8月末日現在

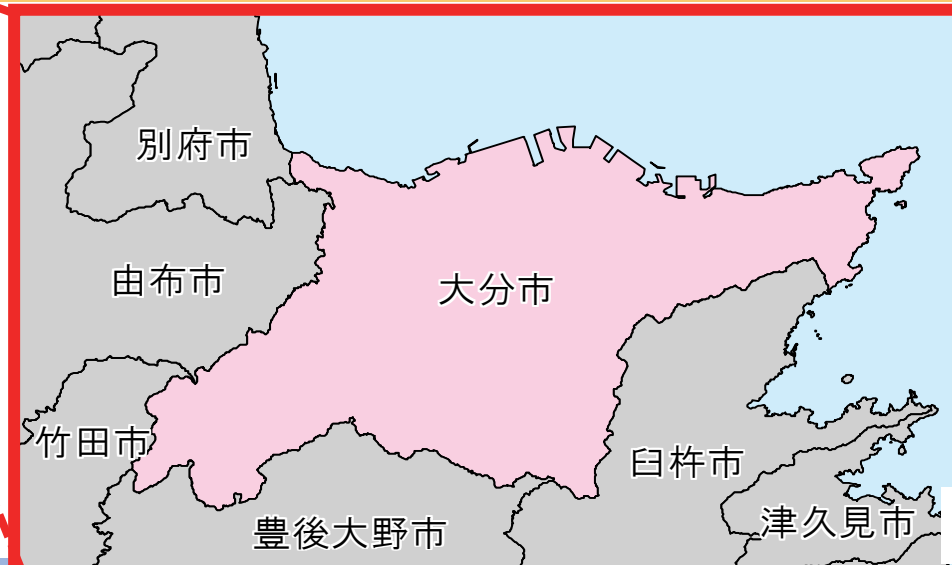


大分市の地勢・沿革

- 九州の東端、瀬戸内海の西端に位置
- 九州の県庁所在地では、宮崎市、鹿児島市に次いで3番目に広大な面積

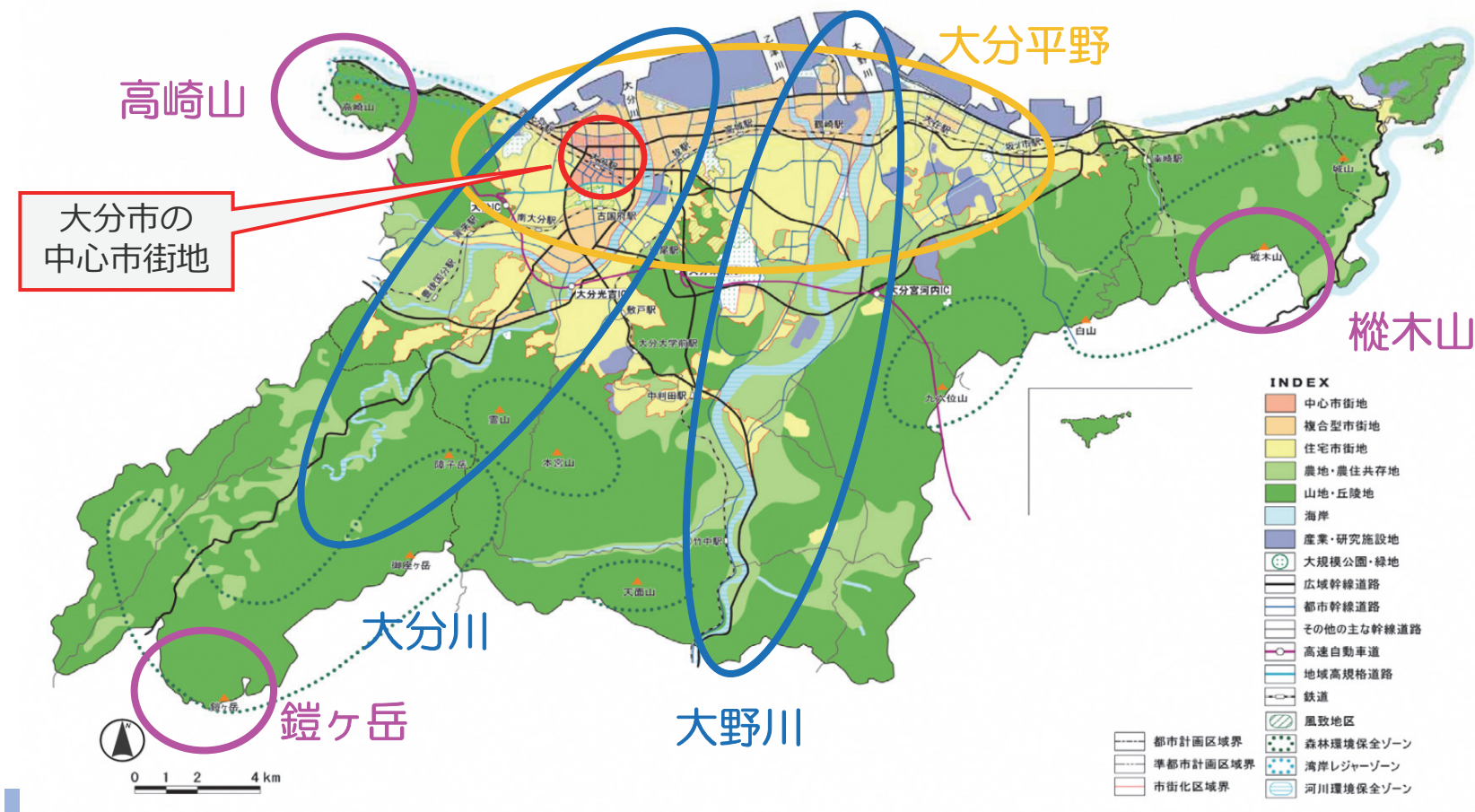


- ・明治4年 大分県の県庁が置かれ行政の中心に
- ・明治38年 6市町村合併
(旧大分市・鶴崎市・大南町・大分町・坂ノ市町・大在村)
- ・昭和39年 新産業都市指定を機に飛躍的発展
- ・平成17年 佐賀関町、野津原町との合併により、現在の大分市へ

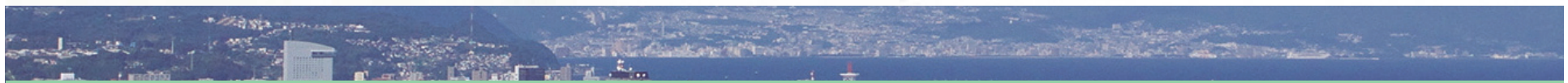
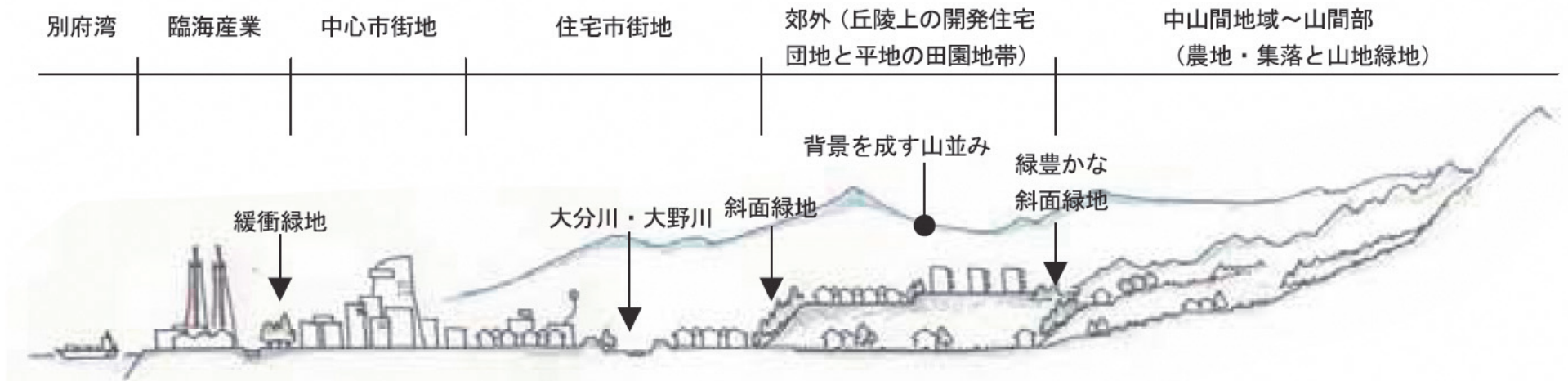


大分市の地勢・沿革

- 高崎山をはじめ、鎧ヶ岳（野津原地域）、樺木山（佐賀関地域）などの山々が連なり、市域の約半分を森林が占める
- 県下の2大河川である大野川と大分川が南北に貫流し、下流部には大分平野が形成



大分市の都市環境

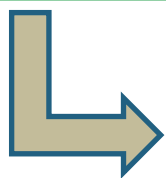


- 別府湾・臨海産業（工業団地）・中心市街地・住宅市街地・郊外（丘陵上の開発住宅団地・平地の田園地帯）・中山間地域（山間の集落）等によって構成
- 郊外には大規模な開発団地（住宅地）が散在し、それらの団地には概ね40年以上が経過したものもあり、住民の高齢化が顕著



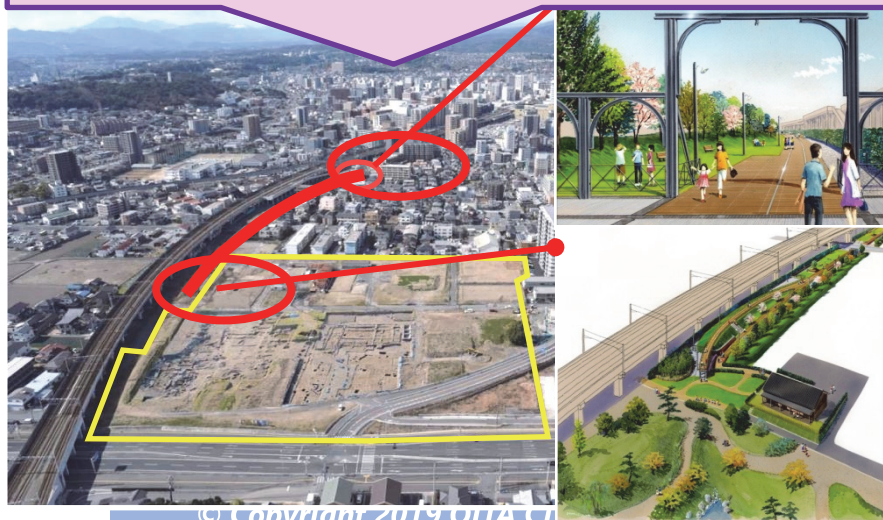
大分市の歴史

- 古くは豊後国の国府が置かれ、府内（ふない）と呼ばれた。
- 中世には大友氏の城下町として発展し、戦国時代にはキリシタン大名大友宗麟の庇護のもと、日本におけるキリスト教布教の中心地となり、南蛮文化が花開いた。



大分市では、郷土の戦国大名「大友宗麟」とその時代をまちづくりの旗印に掲げ、新たな魅力として全国へ情報発信

「南蛮文化発祥都市おおいたの創造・体感・発信」拠点として、
「(仮)大友氏館跡庭園」整備中



大分市の観光とグルメ

高崎山自然動物園



大分マリンパレス水族館「うみたまご」



かんたん港園



関あじ・関さば・大分ふぐ



森林セラピー®





大分市の交通環境対策の取組

■ 取組概要

大分駅南土地区画整理事業により、大分駅南北駅前広場が整備され、鉄道やバス、タクシーの乗り継ぎが円滑化されるなど、大分駅を中心とした公共交通ネットワークが改善された。

また、市民、交通事業者、行政の連携のもと、公共交通と自家用車などの私的交通との最適な組合せを再構築し、持続可能な交通体系の確立に向け、中心市街地循環バス、自動運転車両の実証運行、シェアサイクル実証実験等様々な取り組みを実施。



環境にやさしい交通として、地球環境への負荷の低減につなげる

■ 取組事業

◎ 大分駅周辺の整備

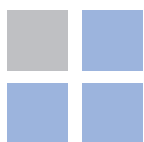
- ・ 大分駅南土地区画整理事業

◎ 公共交通の利用促進

- ・ 中心市街地循環バス
- ・ 自動運転車両実証運行
- ・ モビリティ・マネジメント
- ・ 乗合タクシー(ふれあい交通)

◎ 自転車の利用促進

- ・ レンタサイクル、シェアサイクル
- ・ サイクルフェス
- ・ 自転車マナーアップ教室
- ・ 放置自転車対策



◎ 大分駅周辺の整備

■ 大分駅南土地区画整理事業

事業効果

- ・ 鉄道、バス、タクシーの乗り継ぎ円滑化による交通結節機能の強化
- ・ 駅前広場、シンボルロード整備によるにぎわい創出

大分駅府内中央口（北口）駅前広場



大分駅上野の森口（南口）駅前広場



大分市交通結節機能施設



シンボルロード「大分いこいの道」



区画整理前の大分駅周辺の課題

北側市街地

- 行政、商業・業務、文化等の中枢機能が集積
- 都市基盤がほぼ整備完了

鉄道により都市が南北に分断され、市街地の一体的な発展を妨げている。

国道
210号線

国道197号

大分駅

- 駅裏的印象が強く、商業・業務的土地利用は少ない
- 周辺部からのアクセス性も不十分

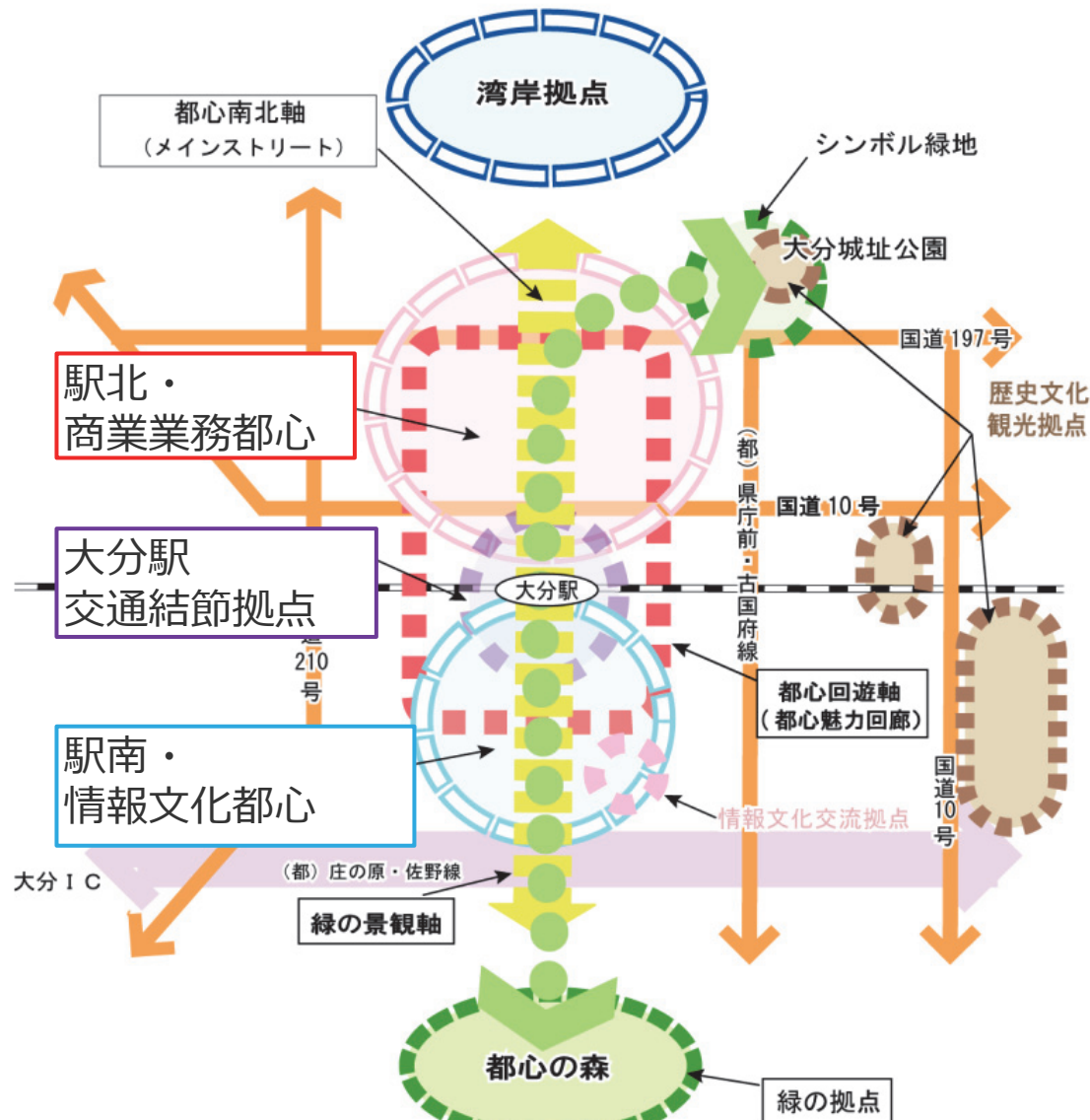
南側市街地

上野の森

大分川

大分市都市計画マスタープラン

中心市街地の将来都市構造図



- ① 鉄道による分断を解消し、
南北市街地の一体的な発展と
交通の円滑化
- ② 駅周辺の低未利用地の解消
- ③ 大分駅への交通アクセスと
交通結節機能の強化
- ④ 都心居住・生活ゾーンの形成



**大分駅周辺
総合整備事業**

大分駅周辺 総合整備事業概要図

①大分駅付近連続立体交差事業

【県事業】 5.57km

- ・平成8年度～平成25年度
- ・総事業費 約603億円

②大分駅南土地地区画整理事業

【市事業】 49.6ha

- ・平成8年度～平成28年度
- ・総事業費 約685億円

《関連事業》

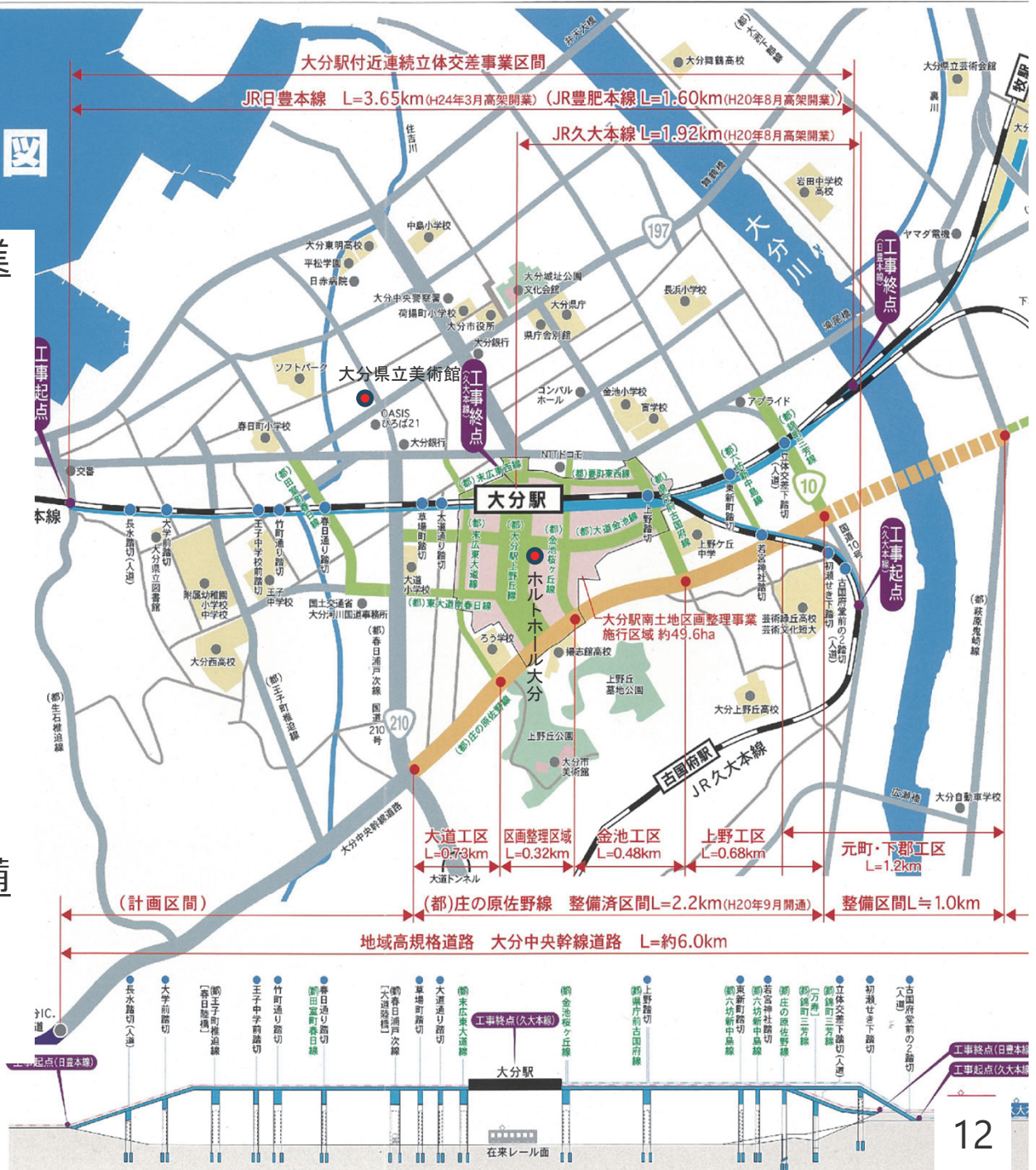
ホルトホール大分整備事業

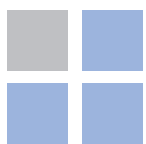
【市事業】 約99億円

③庄の原佐野線等関連街路整備事業【国・県・市事業】

- ・平成8年度～平成28年度
- ・総事業費 約626億円

高架側面図





◎ 大分駅周辺の整備

■ 大分駅南土地区画整理事業

大分駅南土地区画整理設計図

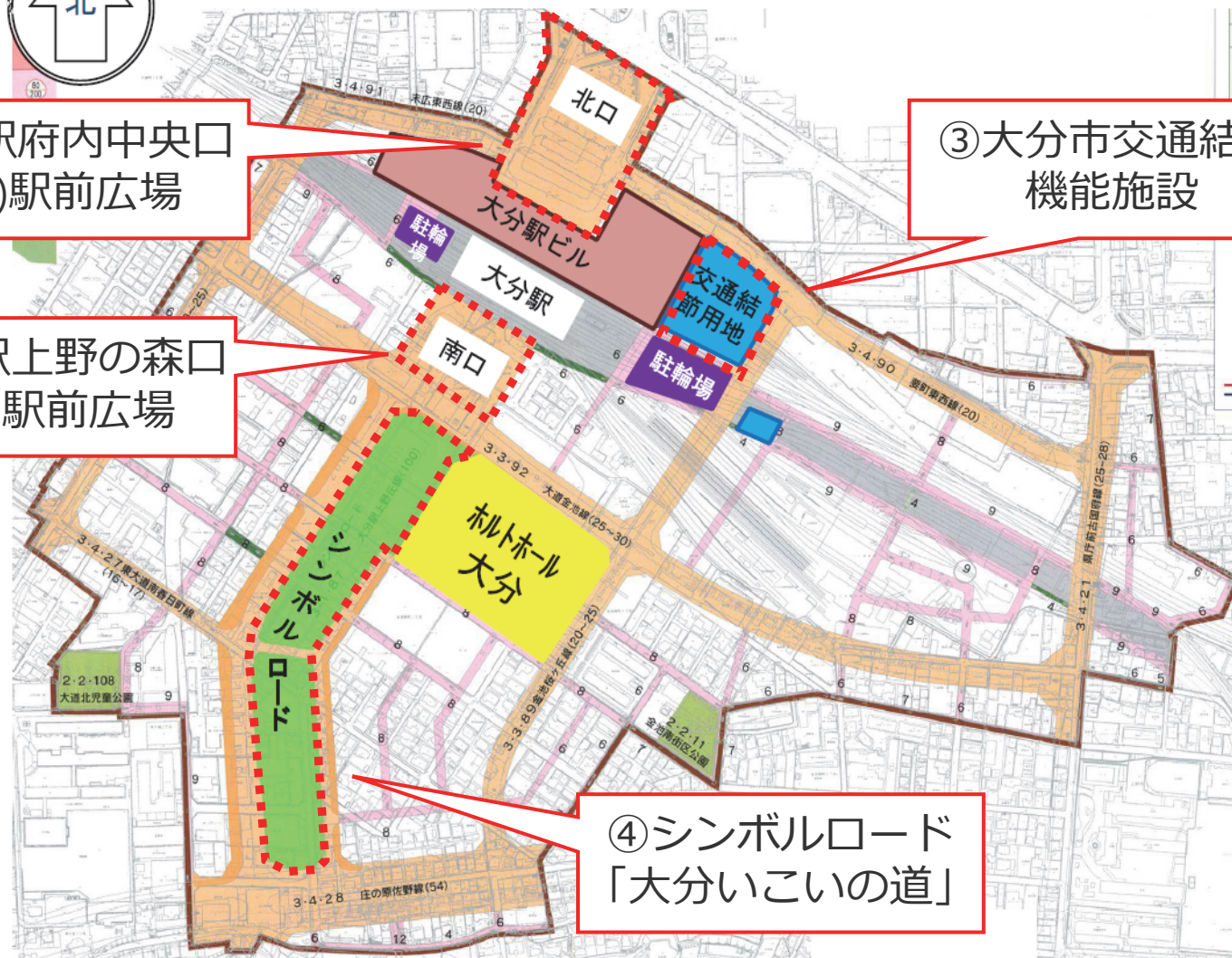


① 大分駅府内中央口
(北口)駅前広場

② 大分駅上野の森口
(南口)駅前広場

③ 大分市交通結節
機能施設

④ シンボルロード
「大分いこいの道」



①大分駅 府内中央口（北口）駅前広場

整備方針：“まち”と“えき”をつなぐ“交通”と“交流”の拠点となる機能的な広場

- ・バス乗降場：7バース
- ・バス降車場：60m
- ・タクシー乗車場：3バース
- ・タクシー降車場：1バース
- ・タクシー待機場：50m
- ・身障者用乗降場：1バース
- ・一般車乗降場：2バース

大分駅ビル

- ・身障者用乗降場：1バース
- ・一般車乗降場：2バース
- ・小型貨物車：2バース

②大分駅上野の森口（南口）駅前広場

- ・バス乗降場：2バース
- ・タクシー乗車場：4バース
- ・タクシー降車場：2バース
- ・タクシー待機場：6バース
- ・身障者用乗降場：2バース
- ・一般車乗降場：3バース

JR大分駅

平成27年9月撮影

15

③大分市交通結節機能施設

交通結節機能施設の概要 (約7,600m²)

- ①路線バス待機場
(路線バスの時間調整 9台)
- ②貸切バス駐車場
(貸切バス 20台)
- ③一般自動車駐車場
(一般車25台、マイクロバス2台)
- ④タクシー待機場
(北口広場のタクシー乗り場に
乗り入れ待機 54台)
- ⑤長距離バスの乗り入れ
(福岡、宮崎、熊本便)



大分駅上野の森口（南口）広場から続く

④シンボルロード「大分いこいの道」



幅員：100m
延長：444m
事業費：約10億円

シンボルロード「大分いこいの道」概要

～整備方針～

- ゆったりとした緑豊かな通りと広場の形成を図る
- 植栽や修景などにより個性と風格ある美しい通りの景観の創出を図る

周辺景観に配慮し“樹木”や“緩やかな丘”を配置
園路沿いにはベンチを配置

イベント広場(約5,000㎡)

- ・電源、散水栓、下水を配置
- ・災害時のヘリの緊急離着陸場として使用可能

記念モニュメント:100年の樹

災害用マンホールトイレ(20基)

公衆トイレ(男:小2、大1 女:2 多目的トイレ)

防災倉庫(約40㎡)

飲料水兼用耐震性貯水槽(100t)

耐震性防火水槽(40t)

幅員100m、延長444m

イベント広場(約2,000㎡)

- ・電源、散水栓を配置

イベント広場(約3,000㎡)

- ・電源、散水栓を配置

大分駅
上野の森口
(南口) 広場

・北側ブロック(平成24年度完成)

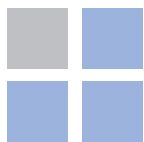
平成25年3月3日に市民植樹祭を開催、2,700人の参加のもと、植樹と芝張りを実施した

・南側ブロック(平成25年度完成)

平成25年11月10日に市民植樹祭を開催
参加者約1,200人

・市民ボランティアによる芝生の管理

0 10 25 50 100m



シンボルロード「大分いこいの道」 イベント広場としての活用

ラグビーワールドカップ2019™

(令和元年9月20日～11月2日まで開催)

・ファンゾーン

パブリックビューイングやステージイベント、
ラグビー体験コーナー、グルメブース

・シャトルバス乗降場

JR大分駅から試合会場まで観客を輸送する
シャトルバスの乗降場として使用



OITAサイクルフェス!!!

(令和元年8月10日～8月11日開催)

・おおいた いこいの道クリテリウム

いこいの道周辺の道路を特設コースとし、
1周1 kmを30周回する自転車レースを開催

・サイクルフェス!!! HIROBA

ウィーラースクール、市民自転車パレード、
BMXショー等



シンボルロード「大分いこいの道」

市民植樹祭（平成25年3月実施）



市民ボランティア組織【大分いこいの道協議会】

協議会憲章：誰もが主役、市民が育てるみんなの広場

ワークショップ



協議会の設立





公共交通の利用促進

■ 中心市街地循環バス

- ・ 自家用車を使わず、まちなかの回遊性を向上
- ・ 高齢者や障がい者等、だれでも円滑な移動が可能に



■ 乗合タクシー(ふれあい交通)

- ・ 交通利用が不便な地域から最寄りのバス停まで運行
- ・ 車移動の減少、外出機会の増加
- ・ 地域コミュニティの醸成



■ 自動運転車両実証運行

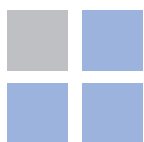
- ・ 地域公共交通における自動運転の導入可能について検討
- ・ 市民の受容性調査及び周知を図る



■ 小学生を対象としたE♬リタイナメント

- ・ エコ交通まちづくり教室
バス利用によるCO2削減学習、バスの乗り方教室





◎ 公共交通の利用促進

■ 中心市街地循環バス

まちなかと市美術館、県立美術館を結ぶ
大分市中心市街地循環バス「大分きゃんバス」

事業効果

- ・ 自家用車を使わず、まちなかの回遊性を向上
- ・ 高齢者や障がい者等、だれでも円滑な移動が可能に

工業デザイナー 水戸岡鋭治氏デザインの車両やバス停

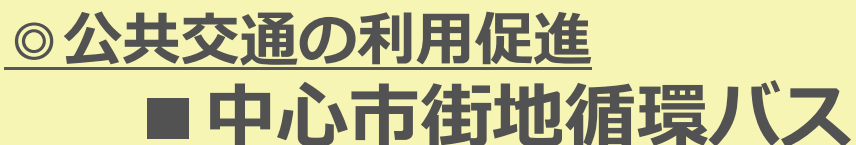


H30年度運行実績

年間のべ利用者数 61,747人
1便あたり平均利用者数 9.8人

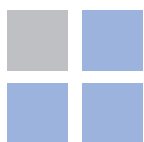
- ・ 平成27年6月 実証運行開始
- ・ 平成28年2月 運行ルート、時刻表を変更
- ・ 平成29年10月 本格運行へ移行。
運行ルート、時刻表を変更
- ・ 平成30年3月末 バス車両リニューアル（3台）





運行事業者	バス事業者（大分バス(株)、大分交通(株)）の共同運行体
路線	1周10.0km
運行時間	8:00～17:45 (土日祝は9:45～)
運行間隔	平日30分毎（18便／日） 土日祝30分毎（16便／日） ※8:00～9:45、16:45～は約60分間隔
利用料金	1乗車100円 (小学生以下50円・障がい者半額) 1日乗車券200円(小学生以下半額) ※休日ファミリー割引あり
運行車両	3台（H30.3月末より水戸岡氏デザインのバリアフリー車両へ移行）





◎ 公共交通の利用促進

■ 乗合タクシー（ふれあい交通）

事業効果

- ・ 交通利用が不便な地域から最寄りのバス停まで運行
- ・ 車移動の減少、外出機会の増加
- ・ 地域コミュニティの醸成

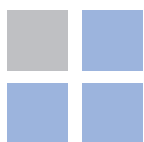
ふれあい交通とは

公共交通機関の利用が不便な地域に居住し
自家用車を運転しない方などの日常生活に
おける移動手段を確保するために運行する
乗合タクシー



H30年度運行実績（H31.3.31時点）

運行ルート数	市内28ルート
登録者数	1,123人
年間のべ利用者数	11,610人



◎ 公共交通の利用促進

■ 乗合タクシー（ふれあい交通）

「ふれあい交通」の概要

運行方式	登録制・予約制の乗合タクシー （予約は運行日前日の17時までに担当タクシー会社へ）
運行業務	大分市タクシー協会に委託
運行地域	最寄りのバス停から0.5km以遠
運行ルート	地域から最寄りの路線バス停留所まで （地域内のどこを通るのかは利用者の方の話し合いで決定）
利用料金	1回200円 （小学生以下、長寿応援バス乗車証提示者は100円）
運行回数	週6～20便（各ルートの登録者数に応じて上下）
運行時刻	利用者の方の話し合いで決定 （路線バスとの乗り継ぎを考慮）
運行車両	予約人数に応じてジャンボ・小型タクシーを必要数配車

現在 28ルート





◎ 公共交通の利用促進

■ 乗合タクシー（ふれあい交通）

ふれあい交通 地域検討会の開催

- ・ 毎年10～12月頃、ルート毎に地域の公民館や集会所で開催。
- ・ **利用実績等をもとに、実際に利用している住民の方で、翌年度の運行計画を検討。**
- ・ 自治会長がまとめ役となり、遠慮なく意見を出してもらう。



平成29年度 九州運輸局交通政策関係表彰 （地域公共交通部門）

【表彰理由】

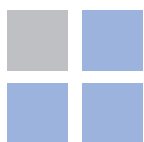
住民による住民のための公共交通を実現している

平成30年 地域公共交通優良団体大臣表彰

【表彰理由】

バスと連携した公共交通ネットワークを構築するとともに利用頻度の高い住民自らが参画して運行計画の策定・見直しを行う仕組みを確立するなど地域公共交通の確保・維持に積極的に取り組んだ。





◎ 公共交通の利用促進

■ 自動運転車両実証運行

事業目的

- ・ 地域公共交通における自動運転の導入可能について検討
- ・ 市民の受容性調査及び周知を図る

自動運転車両実証運行の取り組み①

令和元年9月14日(日)～20日(金)

大分駅上野の森口～大友氏館跡・南蛮BVNGO交流館間で「自動運転車両実証運行」を実施（主催：大分市、運行：群馬大学）

目的：JR大分駅を中心とした交通結節拠点と、歴史文化観光拠点の連携を図る

運行ルート：大分駅上野の森口～大友氏館跡・南蛮BVNGO交流館（約1.2km）

片道約10分、**時速20km未満**。1日16便、14名乗車で運行

利用人数：のべ**1,064名**



車両：「eCOM-10」



◎ 公共交通の利用促進

■ 自動運転車両実証運行

自動運転車両実証運行の取り組み②

令和元年10月6日(日)～14日(月)

中心市街地循環バス「大分きゃんバス」のルートで実証実験を実施

(主催：大分市、運行：大分バス(株)、運行車両：群馬大学所有の車両)

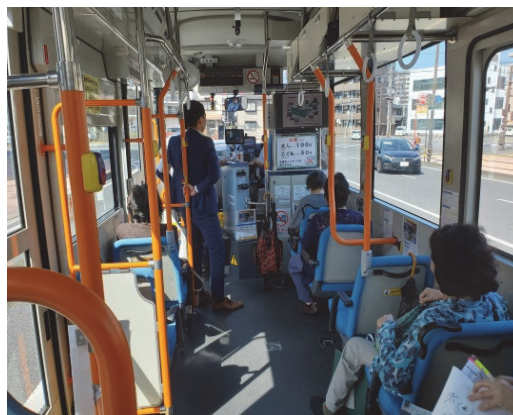
目的：自動運転のさらなる実用化を目指し、路線バスのルートで、バス事業者による有料運送を行う

運行ルート：中心市街地循環バス「大分きゃんバス」ルート（約10km）

運行概要：平日18便、土日祝16便のうち、**3便**を自動運転で走行。

自動運転走行時は時速30km未満。最大34人乗り（立席含む）

利用人数：のべ**577名**





◎ 公共交通の利用促進

■ 小学生を対象としたモビリティ・マネジメント

事業効果

- ・ エコ交通まちづくり教室
(バス利用によるCO₂削減学習、バスの乗り方教室)
- ・ 公共交通の利用促進

バス事業者と連携し、市内の小学校でエコ交通まちづくり教室(バス利用によるCO₂削減学習、バスの乗り方教室)を実施。

◎平成30年度開催実績 小学校 2校

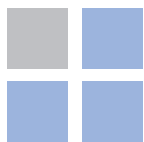


・ バス利用によるCO₂削減学習

スライドを使用し、地球温暖化やバスを利用して移動することによるメリットを学ぶ。

・ バスの乗り方教室

実際に学校周辺をバスで走行し、バスの乗り方や運賃の支払い方法、バスでのマナー等を学ぶ。



自転車利用促進

■ シェアサイクル

- ・ 車による移動の減少、CO2削減や健康増進
- ・ 複数箇所に貸出拠点を設置し、市街地・観光地等の回遊性を向上



■ OITAサイクルフェス

- ・ 自転車ロードレースと自転車関連イベントを開催
- ・ にぎわいの創出、外出機会の増加



■ 自転車ルール、マナーの啓発

- ・ 小中学生を対象に、自転車交通ルールマナーの授業
- ・ 中学校・高校を対象に自転車マナーアップ推進モデル校を指定
- ・ 交通事故防止、自転車利用促進



■ 放置自転車対策

- ・ 駐輪場の自転車等の整理
- ・ 放置自転車禁止区域を指定し、放置された自転車を撤去
- ・ 歩行者の安全な通行環境や、景観に配慮した快適な環境を確保





◎ 自転車の利用促進

■ シェアサイクル

事業効果

- ・ 車による移動の減少、CO2削減や健康増進
- ・ 市街地・観光地等の回遊性を向上

大分市シェアサイクル普及促進事業「おおいたサイクルシェア」

「おおいたサイクルシェア」とは

事前に登録をすれば、市内各所に設置した自転車の貸し出し拠点「サイクルポート」から、いつでも自転車の貸出・返却が可能なシェアサイクルのこと

利用料金

- ・ 1回会員：165円/30分（税込）
-延長30分毎：110円（税込）
- ・ 月額会員：1,320円（税込）
-1回30分までは無料
-延長30分毎：110円（税込）
〔決済方法：クレジット決済〕
- ・ 1日パス：1,650円（税込）
〔セブンイレブン・ファミリーマートで購入〕

サイクルポート数
38箇所
(R1.9.30時点)

隣接する別府市にも
ポート設置！





◎ 自転車の利用促進

■ OITAサイクルフェス

事業効果

- にぎわいの創出による観光振興
- 自転車の楽しさ、魅力の発信



自転車ロードレース ※UCI(国際自転車競技連合)公認レース

- おおいた いこいの道クリテリウム
1周1kmのコースを30周回する30kmのレース
- おおいた アーバンクラシック
1周11.6kmのコースを13周回する150.8kmのレース

自転車関連イベント

- サイクルフェス!!! HIROBA
ウィーラースクール、市民自転車パレード、BMXショー等

今年度来場者数

- ◆ 8/10(土) おおいた いこいの道クリテリウム
 - 大分いこいの道会場 24,940人
- ◆ 8/11(日) おおいた アーバンクラシック
 - 大分いこいの道会場 17,328人
 - 大分スポーツ公園周辺 7,395人
 - 計49,663人





◎ 自転車の利用促進

■ 自転車ルール、マナーの啓発

事業効果

- ・ 交通事故防止、自転車利用促進

・ おでかけ自転車マナーアップ教室

公道で自転車に乗り始める小学生(高学年)や中学生を対象に、自転車のルール・マナーを主題とする教室を開催

◎平成30年度開催実績

小学校 10校、中学校 2校



駅前駐輪場の清掃活動

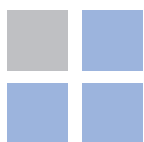


登下校時のマナー啓発

・ 自転車マナーアップ推進モデル校

自転車マナーアップ推進モデル校を指定し、生徒の代表(生徒会等)もまじえ、学校・生徒・大分市・各警察署等が協働で自転車のマナーアップに向けたさまざまな取組みを企画し実施する

◎平成30年度指定実績 高校 3校



◎ 自転車の利用促進

■ 放置自転車対策

事業効果

- ・ 歩行者の安全な通行環境や、景観に配慮した快適な環境を確保



駅前広場や道路上に停められている放置自転車は、交通の阻害、歩行者の安全やまちの景観を損なう。

→ **自転車等放置禁止区域を指定**し、放置自転車の撤去、放置自転車を抑制するための誘導整理を実施。

放置自転車撤去の流れ

- ① **自転車等放置禁止区域**に放置された自転車に警告札を取り付け
- ② **警告札の取り付けから3時間**にわたって放置された自転車を撤去
- ③ 撤去した自転車を返還する場合は、保管料を徴収（自転車の場合 1,050円）
- ④ 一定期間保管し、所有者が現れない自転車については、レンタサイクルや譲渡による再利用や廃棄

ご清聴ありがとうございました



大分市 都市計画部 都市交通対策課長 橋本 陽嗣